

※本文に関連するものを中心にとめた。日本史に関わる出来事はゴシック体で記す。

西暦	和暦	出来事
六四四	皇極三	・『日本書紀』に富士川近辺の人物として大生部多が登場する。
六四五	大化元	・乙巳の変（大化改新のはじまり）。
六七二	天武元	・壬申の乱。
七〇一	大宝元	・大宝律令制定。
七一〇	和銅三	・平城京遷都。
七八一	天応元	・富士山が噴火する。
七九四	延暦一三	・平安京遷都。
八〇〇	延暦一九	・富士山が噴火する。火山灰で足柄路が埋まり、新たに箱根路を開く。
八五三	仁寿三	・浅間神が名神に列せられ、同年に従三位、貞観元年（八五九）に正三位、延喜七年（九〇七）に従二位、後に正一位となる。
八六四	貞観六	・富士山が噴火し、溶岩流により割の海が精進湖と西湖に分かれる。
九〇二	延喜二	・盗賊集団により、富士郡の官舎が放火される。
九二七	延長五	・『延喜式神名帳』に浅間神社（浅間大社）・倭文神社・富知神社が記される。
九三七	承平七	・富士山が噴火する。
九三九	天慶二	・平将門の乱。
九九九	長保元	・富士山が噴火する。
一〇一六	長和元	・藤原道長が摂政となる。

西暦	和暦	出来事
一〇三二	長元五	・富士山が噴火する。
一〇八三	永保三	・富士山が噴火する。
一〇八六	応徳三	・白河天皇が譲位し、堀河天皇が即位する（院政の開始）。
一一三二	天承二	・有鑑（末代）が富士山に登頂したとされる（『地藏菩薩靈驗記』）。
一一四九	久安五	・末代による大般若経書写が行われる。
一一六七	仁安二	・平清盛が太政大臣となる。
一一八〇	治承四	・源頼朝が伊豆の目代である山木兼隆の館を襲撃する。
一一九二	建久三	・富士山麓で鉢田の戦い・富士川の戦いが起きる。
一一九三	建久四	・源頼朝が征夷大将軍に就任。
一二〇三	建仁三	・源頼朝が富士山麓で巻狩りを催す。
一二一九	建保七	・曾我兄弟の仇討ち。
一二二一	承久三	・源頼家が富士山麓で巻狩りを行い、新田四郎が人穴を探検する。
一二二二	貞応二	・北条泰時が浅間大社に参拝する。
一二三二	貞永元	・承久の乱。
一二七四	文永元	・北条義時が浅間大社を造替する。 ・御成敗式目が制定される。 ・日蓮が大宮などを経て身延山に到着する。



西暦	和暦	出来事
一二七九	弘安二	・文永の役。 ・尼阿仏が富士川に来て「十五の瀬」を渡る。
一二八〇	弘安三	・東海道を旅した飛鳥井雅有が『春の深山路』に富士川の光景を記す。
一二八一	弘安四	・弘安の役。
一二九〇	正応三	・大石ヶ原に大石寺が開かれる。
一二九八	永仁六	・重須に北山本門寺が開かれる。
一三三三	元弘三	・鎌倉幕府が滅亡する。
一三三四	建武元	・後醍醐天皇による建武の新政がはじまる。
一三三五	建武二	・足利尊氏が浅間大社に土地を寄進する。 ・小泉の久遠寺が開かれる。
一三三六	建武三・延元元	・中先代の乱。
一三三八	暦応元	・足利尊氏が浅間大社に土地を寄進する。
一三四四	康永三・興国五	・足利直義が遠江の所領を浅間大社に寄進する。
一三五〇	観応元・正平五	・後醍醐天皇が京都を脱出して吉野へ移り、南北朝時代がはじまる。
一三五五	観応元・正平六	・足利尊氏が征夷大将軍となる。
一三五九	観応元・正平六	・西山本門寺が開かれる。
一三五〇	観応元・正平五	・観応の擾乱。
一三五五	観応元・正平六	・富士大宮司が甲斐への通路の警固を命じられる。
一三五九	観応元・正平六	・桜野で尊氏方と直義方が合戦をする。

西暦	和暦	出来事
一三六二	慶長三・享二七	・今川範氏が浅間大社に対し、駿河勾金・栗原両郷の万雑公事を免除する。
一三六八	応安元	・足利義満が征夷大将軍となる。
一三八四	至徳元・正中元	・今川泰範が浅間大社の駿河勾金・栗原両郷における権利を再確認する。
一三九二	明德三・元中九	・南北朝が合体する。
一三九八	応永五	・走湯山密厳院の関東の寺領一覽に「富士村山寺」が記される。
一四〇〇	応永七	・今川泰範が浅間大社に対して遠江の富士不入斗などの地を寄進する。
一四一六	応永二三	・上杉禅秀の乱。
一四一八	応永二五	・足利義持が今川範忠に対し、浅間大社社領の課役を免除するよう命じる。
一四三二	永享四	・今川氏で家督継承をめぐる争いが起きる。
一四三三	永享五	・翌年に今川範忠の家督相続が決定する。
一四三八	永享一〇	・足利義教の富士下向。
一四四一	嘉吉元	・駿河国人の富士氏が駿河での騒動の様子を室町幕府に報告する。
一四四七	文安四	・永享の乱。
一四四七	文安四	・嘉吉の変。
一四四七	文安四	・足利持氏の遺児である万寿王丸(足利成氏)が鎌倉に入る。

西暦	和暦	出来事
一四五四	享徳三	・享徳の乱。
一四五五	康正元	・上杉持朝が富士忠時に対して、戦功をあげたことを称える。
一四五七	長祿元	・上杉持朝・今川範忠らが鎌倉を制圧する。
一四六一	寛正二	・室町幕府が足利政知を関東に派遣することを決定する（堀越公方）。
一四六二	寛正三	・今川範忠が子の義忠に家督を譲り、死去する。
一四六五	寛正六	・富士忠時が能登守に任ぜられる。
一四六七	応仁元	・富士忠時と父の富士祐本との間に争いが起きる。
一四七六	文明八	・応仁・文明の乱。
一四七八	文明一〇	・今川義忠が遠江の塩買坂で戦死する。
一四八六	文明一八	・村山の興法寺で大日如来坐像が造立される。
一四八七	長享元	・聖護院道興が東国廻国の最中、村山に来訪する。
一四九七	明応六	・龍王丸（今川氏親）が今川氏の当主になる。
一五二一	永正一八	・富士親時が富士浅間宮物忌令を作成する。
一五二六	大永六	・富士郡の軍勢が甲斐に侵攻するが、武田軍に撃退される。
一五三二	天文元	・今川氏親が死去し、子の氏輝が跡を継ぐ。 ・今川氏輝が富士宮若を馬廻とし、星山の代官職を安堵する。

西暦	和暦	出来事
一五三六	天文五	・今川氏の相続をめぐる争い（花蔵の乱）が起こり、梅岳承芳（今川義元）が勝利する。
一五三七	天文六	・北条氏綱が今川氏領国の駿河に侵攻する（河東一乱）。
一五三九	天文八	・富士宮若が今川氏方に属して小泉上坊にたてこもり、手柄をたてる。
一五四五	天文一四	・今川義元が井出駒若に上野の関銭取立てなどを認める。
一五四六	天文一五	・聖護院の道増が興法寺の慶覚坊に大内按察使坊の相続を認める。
一五五〇	天文一九	・今川義元が北条方の吉原城を攻撃する。
一五五一	天文二〇	・今川氏・武田氏・北条氏の和睦が成立する。
一五五二	天文二一	・富士上方で検地が実施される。
一五五四	天文二三	・富士上方で検地が実施される。
一五五八	永祿元	・今川義元が富士（麓）金山への荷物運搬を認める。 ・今川義元が浅間大社の春長坊に対し、風祭神事の歳費徴収を認める。 ・本門寺本（重須本）『曾我物語』が日義によって書写される。 ・今川義元が大鏡坊頼慶に山宮大夫を務めるよう命じる。



西暦	和暦	出来事
一五六〇	永禄三	・桶狭間の戦い。 ・今川氏真が厚原・根原における新関の設置を停止させる。
一五六一	永禄四	・「遠州谷劇」の中で富士又八郎が飯田口での合戦において戦功をあげる。
一五六三	永禄六	・今川氏真が大宮六度市を楽市とする。
一五六六	永禄九	・織田信長が足利義昭を奉じて入京。
一五六八	永禄一一	・武田信玄が駿河へ侵攻を開始する。信玄の動きにあわせ、徳川家康が遠江に攻め入る。
一五六九	永禄一二	・武田軍が富士信忠の守る大宮城を攻撃する。 ・今川氏真が懸川城を徳川家康に明け渡す。
一五七一	元亀二	・武田信玄の攻撃により大宮城が開城する。 ・今川氏真が富士信通に対して、北条・今川陣営からの離脱を認める。
一五七二	元亀三	・武田氏により浅間大社社人の再編成が行われる。
一五七三	天正元	・室町幕府が滅亡する。
一五七五	天正三	・長篠の戦い。
一五七六	天正四	・武田氏が根原郷などへ伝馬掟を下す。
一五七七	天正五	・武田氏が富士信通を浅間大社の大宮司に任命する。
一五七八	天正六	・武田氏による浅間大社の造営が完成し、遷

西暦	和暦	出来事
一五八〇	天正八	宮が行われる。
一五八二	天正一〇	・武田氏が大宮西町新市の掟を出す。 ・織田信長が武田氏を滅ぼす。信長は中道往還を通り、大宮に宿泊する。
一五八三	天正一一	・本能寺の変。 ・井出正次が北山用水を竣工する。
一五八五	天正一三	・徳川家康が上井出宿の諸役免許を再確認し、伝馬役の負担を命じる。
一五八九	天正一七	・羽柴秀吉が関白となる。 ・京都方広寺の建築のため、富士山麓から木が伐り出される。
一五九〇	天正一八	・徳川家康が領国の検地を行い、七カ条定書を出す。 ・小田原合戦。 ・徳川家康が関東に転封し、中村一氏が駿河を支配する。